

## 第3回下水汚泥有効利用勉強会を開催しました

滋賀県では、順次更新時期が訪れる汚泥処理施設について、職員の知見を深め、更新時における方式選定の参考にするため、汚泥有効利用についての新技术を勉強する場として、令和3年度から職員向けの勉強会を開催しています。

令和4年12月20日(火)に第3回勉強会を開催しましたので概要を報告します。

第3回勉強会は、令和4年度より開始した「下水汚泥有効利用調査研究」の中間報告を兼ねて対面・WEB併用により開催し、下水道課、南部・北部流域下水道事務所等から約20名が参加しました。



勉強会の模様

この研究は、将来にわたり順次訪れる汚泥処理施設の改築時期に、適用可能な有効利用技術について研究していくもので、令和4年度は滋賀県立大学が受託し実施しています。

研究内容は、汚泥をメタン発酵し、吸着材等によりリンを回収するとともに、重金属も分離

し、分離後の固形物を高機能バイオ炭とするもので、まずは県立大学の伴教授より、研究内容と進捗状況、脱水汚泥の物性実験結果について報告がありました。

続いて協力機関の創価大学の佐藤教授と藤原助教から「下水汚泥の連続メタン発酵試験結果」「リン吸着材の選定」「炭化汚泥等の製炭条件の検討」について報告がありました。

メタン発酵実験では、順調にバイオガスが生成できていることやリン吸着材の選定についての報告、また県内の脱水汚泥を使っでの炭化実験では、温度条件を変えて炭化汚泥を作成し、それぞれの物性試験結果についての報告がありました。

今年度の研究期間は3月までとなっており、最終の成果に向けて研究の進捗を注視していきたいと思えます。

研究中の新技术を実施設に適用するのは、実地検証も考慮すると時間がかかりますが、今後も引き続き勉強会等を通して、知見を深めていきたいと考えています。